

自転車通勤ブームが加速しているようです。それに伴い、混み合った歩道を猛スピードで駆け抜ける自転車が増え、接触事故も多発しています。

10年中の自転車絡みの交通事故は、全国で15万1626件に上り、全事

故の約21%を占めました。対応策として自転車道の整備が効果的なのは実証済みですが、それには自治体の協力が必要となります。しかしながら、すれ違いが可能な道路の幅員は

2〜3・5メートル必要で、現実には造成するととなると困難な場合が多いのです。

警察庁はこの難点を解消するため、今年7月、「自転車道を二方通行にする」案を発表しました。幅員が

狭くても、事故を防げるというアイデアです。

その専用標識は早ければ年内にも路上にお目見えするとのこと。交通安全教育とともに道路環境の整備も重要な課題となっています。

自転車の二方通行化



交通安全三要素